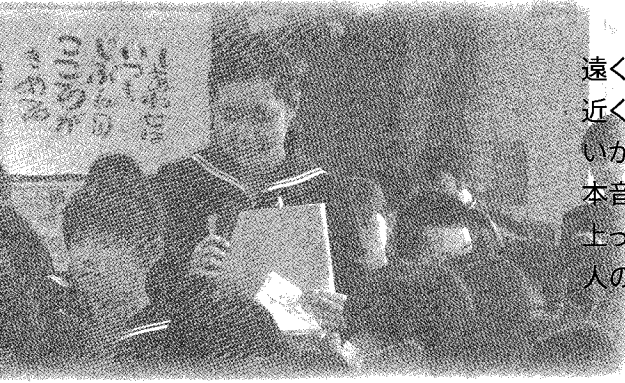
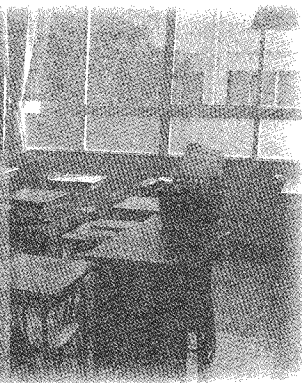


# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース

Q. 中学生当時、「全体学習(みんなで語り合う人権学習)」をどう感じていたか?

「はじめはそれまでの道徳の授業と同じように、『正しい答え』『求められる答え』を発言していたと思います。どこから変わったのかよくわかりませんが、多分誰かが同和問題を自分のこととして語り始めたあたりから、それまでの道徳の授業とは違い、私も自分の周りで起きてる問題として、真剣に考えるようになったんだと思います。

私の友達が悩んでる問題、これは一緒に取り組まないといけない問題で、中途半端していると周りを傷つけると感じてました」



遠くのこととはヒトゴト。

近くになればワガゴト。

いかにして、ヒトゴトからワガゴトへと変えていくのか。

本音を語ること。胸の内の心の奥底にある本当の思いを語ること。

土っ面の、一人称ではない発言には何も心揺さぶられません。

人の本心が見えるから、人は心震え、変わろうとするのです。

「当時、『差別は外にいる人間の方がよく分かる』と言ってたように、校区にあった差別、特に家での祖父の発言に怒りをぶつけていました。自分たちに何が変えられるのか、どうすれば差別が無くせるのか、本気で考え、悩んでいたと思います。

私が部落出身なら、私の意見ももっと重いものになったのかも…。

お年寄りがいなくなったら、差別は無くなるかなあ…。

なんて考えていました。

今思えば、あの頃はアツかったなあー、当時の思いはどこにいったんだろうー、と恥ずかしい気分になりますが、あの時、子どもながら一生懸命に燃えていた自分があるからこそ、部落差別を私はしないだろうし、したくないし、自分の子どもには決して間違っただ差別を押しつけないと思います。

今の私には世の中を変えるだけの力も情熱もないけれど、自分の子どもの考えを導いていくことはできると思うので、そこだけは間違えないようにしたいし、それが出来れば、あのとき学んだことは小さな実を結ぶのではないのでしょうか」

いま、自分に何ができるのか——。

差別は、家の中にある。そこがまず一番の勝負所。

その起点になるのが、学校。

「差別はいつなくなるの?」

人はよく言うけれど、「なくなるの?」と言ってらうちはなくなるらない。

他人任せにしているうちはなくなるらない。

いじめも差別も、今すぐになくしたい。

けど、今すぐにはなくせない。

でも、今なくそうとしなければ、なくせるはずがない。

人の「熱」はそれぞれ。

けど、それぞれなりの「熱」は、確実に未来を変えていく。

本気の人権学習は、——「すべてを変える」

